

ヒヤリ・ハット事例

一般社団法人千葉県産業資源循環協会

2021.9.30までの回答分

外注作業その他

	どこで	何をしているとき	何がどうした	改善すべき事項	不安全行動(本人)	不安全行動(他人)	不安全状況	不安全設備	重機作業
1	自社場内	場内荷降ろし中	荷台に居た作業員が足を滑らせて転倒しそうになった。	油等が回っていないか荷台の確認。安全靴の状態ならびに平らな場所に車両が停車しているかを見直す。			○		
2	第3工場2番ピット前	ピットにて収集後の車両洗浄中	収集後の車両洗浄中に、工場のクレーンが動き出し、車両と接触しそうになった。	ピット内で作業している時は焼却課に、クレーン操作を中止するように要請する。今回のヒヤリハット事例を、焼却課と輸送課全員に朝礼や回覧等で周知し、再発防止に努める。		○	○		
3	現場	中間ステージでノズル清掃時	上から工具が落下してきた。	上下作業を行わない。どうしても作業する時は相互声かけを行い、落下防止をしてから行う。		○	○		
4	操作室	操業監視中	操作盤監視中に地震が発生した時、携帯やDCSの地震アラームが一斉に鳴り、あせってしまった。	あわてず、あせらずにゆっくり行動をし、無線にて情報を共有する。			○		
5	ポンプエリア	ポンプ交換時	ポンプ交換時、ハチが数匹いたので、調べたら巣があり、一時作業を中断した。	殺虫剤で巣を除去してから作業を開始した。			○		
6	下部ノズルステージ	散水ノズル清掃時	ノズルを取り外そうとボルトを抜いた際、誤ってボルトを下に落とし、下のステージまで落ちてしまった。	作業する際、足元等にウェス等をひいて落下防止する。	○				
7	入口門	門からスロープを上り、厚生棟に入る際	工事のため、歩廊のコンクリートに段差が出来ており、足を踏み外した。	コーンを置いて注意喚起をし、足元注意の表示をする。			○	○	
8	現場	フォークリフト運転時	フォークリフトを運転しようと思った際、違和感を感じたので点検をしたところ、前輪ホイールナットがゆるんでいた。	試乗前点検を行う時に、タイヤチェックも必ず行う。				○	
9	本社駐車場	駐車場から道路に出ようとした時	塀スレスレにトラックが目の前を減速せずに通り過ぎた。	ミラーの活用と完全な一時停止。		○			
10	北区豊島1丁目付近	雨水樹清掃作業中	移動するためにホースを片付けていたら、歩道を勢いよく自転車が走ってきて当たりそうになった。	作業中も周囲を確認し安全を確保しながら作業する。		○			
11	新江東清掃工場内	場内歩行中	扉付近の段差につまづきそうになった。	足元をしっかりと確認して怪我が無い様注意します。	○				
12	場内駐車場	場内清掃時	清掃作業時に車止めにつまづいた。	清掃作業に集中しすぎず周囲の確認を行う。	○				
13	客先のグリストラップ	現場確認中	下を向いて移動して木の枝と接触しそうになった。	全体の危険箇所等、状況を確認して行動する。	○				
14	江戸川区 瑞江駅付近路上	買い物後車で家へ帰る途中	路上駐車している車がハザードをつけたまま突然動き出したため、横を通過しようとした自分の車と接触しそうになった。	危険予知の徹底。		○			
15	河川	波消しブロックの上で作業している時	ゴミや流木の回収作業時、脚が滑り転びそうになった。	両手をふさがないようにし、何が落ちているかわからないので手足元に注意して作業する。			○		

	どこで	何をしているとき	何がどうした	改善すべき事項	不安全行動 (本人)	不安全行動 (他人)	不安全 状況	不安全 設備	重機 作業
16	本社事務所 階段	階段でおりるとき	事務所と階段の間のドアが、突然勢いよく開いてぶつかりそうになった。	勢いよく開けない。 ドアから少し離れて慎重に通る。			○		
17	本社事務所 通用門出入口	本社から通用門を出るとき	歩道を猛スピードで自転車が走っていて、ぶつかりそうになる。自転車がびっくりしていた。	慎重に出る。 ミラーを設置する。		○			
18	本社事務所	ロッカーの整理中	上段のロッカー扉を開けたまましゃがみ、そのまま立ち上がり頭を扉にぶつけそうになった。	開けた扉は閉めてから作業をする。	○				
19	車庫のコンテナ 置き場	コンテナ交換をしている時	コンテナのローラーが敷いてある鉄板と鉄板の間に挟まり動かなくなったが、押し続けていたらアームが壊れた。	コンテナの設置場所を下車して事前に確認する。	○				
20	場内	空車を台車で計量して右折後すぐ左折する際	前から来た車両と接触しそうになった。	お互い見えにくいので注意して、すぐに止まれるような心構えで進行する。	○	○			
21	国道16号	信号待ち (帰宅時)	信号が青になって前方の車が、パーキングから後退にギヤを入れて後ろに下がってきた。	信号待ちの時も車間をとり、停車する		○			
22	車庫で	空ドラムを積んだ時	トラックに空ドラムを積む時荷台が濡れていて、滑って転倒しそうになった。	ドラムを積む時は、荷台を確認し濡れたところはウェスで拭くようにする。			○		
23	構内回収場所	ダストカートの入替 作業中	フタを空けた状態で移動したので移動中にフタが下がり頭をぶつけそうになった。	フタは必ず閉めて移動させる。 入替作業は複数人で対応する。	○				
24	構内	ゴミ袋を両手に持って3段の階段を下りる際	足元が見えず、且つ手すりを掴まないで階段を降りた際に、足が滑って転倒しそうになった。	階段の昇降は3点保持を前提として、足元の安全を確保する。	○				
25	構内	台車移動時	死角となっている曲がり角を曲がる際に、人と接触しそうになった。	死角の曲がり角では、台車を方向転換して後退させて、進行方向の安全を確認する。	○		○		
26	構内作業場	選別中	ごみを踏んで転びそうになった。	歩くときは足元をよく見る。	○				
27	県道8号 藤沢付近	自家用車で帰宅中	片側一車線を走行中、反対車線渋滞中、横断歩道をトラックが塞ぐように停車、トラック後方より歩行者が飛び出してきた。	横断歩道がある場所ではいつでも止まれる速度までスピードを落とす事を心掛ける。		○			
28	事業所構内 (事務所前)	歩行中	歩きながら伝票を確認していたところ、事務所入口の段差につまづき転倒しそうになった。	慣れた場所で安全であるとの思い込みを無くし、ながら作業を無くす。	○				
29	構内	階段を登っているとき	エプロンの裾につまづき、転倒(落下)しそうになった。	作業場に到着してからエプロンを着用する。	○				
30	構内(選別台)	ゴミ袋を展開している時	袋の中からこわれたハサミが出てきた。	耐切創手袋をしていたが、刺さり弱いので目視して対象物を明確にする。		○			

	どこで	何をしているとき	何がどうした	改善すべき事項	不安全行動 (本人)	不安全行動 (他人)	不安全 状況	不安全 設備	重機 作業
31	構内作業場	選別中	足元に散乱した物に足を取られて転倒しそうになった。	こまめに物を片付ける事。	○				
32	一般道のT字路 交差点	帰宅する時に乗用車 運転中	左折する際に左側から自転車が一 時停止せずに飛び出してきた。	交差点は必ずスピードを落とし、「か もしれない」運転を行う。		○			
33	構内廃棄物置 場	積み込み作業している 時	平ボディ車の横から荷台に上がる 際にあおりに足を打ちそうにな った。	足元の確認を徹底する。	○				
34	リサイクルセン ター工場内	フォークリフトで荷物 を搬送中	死角から人が出てきてぶつかりそ うになった。	重機と人の動線を分ける。安全速度 と死角前での一時的停止を徹底する。	○		○		
35	構内作業場	2F作業場から階段 で降りる時	足を滑らせて落ちそうになった。	必ず手すりに掴まって降りる。	○				
36	構内作業場	選別作業時	床に転がっている空きピンを踏ん でしまい転びそうになった。	作業場の足元に落ちているものを 小まめに拾う事。			○		
37	国道16号 野田 梅郷交差点 (出勤時)	交差点を左折する時	前方の信号が青に変わり左折す る際にバイクが自転車左側を直進で 抜けて行った。	左折ウinkerを点灯させても自分 の安全を軽視する人が存在する。 自分が他者を巻き込まない事を徹底 する。		○			
38	構内作業場	選別作業終了時の 片づけをしている時	足元にビニール袋が散らかっており、 足がからまって転倒しそうにな った。	足元を注意して歩く。 袋や紙くず、缶類はこまめにひろう。			○		
39	構内作業場	階段を降りる時	足を滑らせて落ちそうになった。	手すりに手を付け、足元を見て降り る。両手に荷物を持たない。	○				
40	構内廃棄物置 場	可燃物の収集作業 中	中身が見えないビニール袋を掴ん だ際に竹串が指に刺さりそうにな った。	慎重に作業すべきだった。 ビニール袋を掴まずに結び目を持っ ようにする。	○		○		
41	通勤時一般道	道路走行中	対向車がよそ見で、中央線をまた いで自転車に寄ってきた。	自転車速度が遅かったので対処でき たが、生活道路を「かもしれない」を 意識する。		○			
42	構内作業場	構内歩行中	雨が降っており足元が滑った。	落ち着いて歩く。			○		
43	リサイクルセン ター工場内	ショベルローダーで 廃棄物をかき揚げ作 業中	雨天の為に工場内床面が濡れて おり、走行時にスリップして壁に接 触しそうになった。	工場内の床面は摩擦が少なく、ス リップしやすく、凶器となる事を前提 に急発進、急旋回、急ブレーキは絶 対に避けて最徐行を行う。			○		○
44	構内作業場	車のバック誘導し ているとき	路面に落ちているごみを蹴った時 に足を滑らせて転びそうにな った。	落ちている物は手で拾う。	○				
45	構内	搬入されたゴミの 分別作業時	棒状の物や傘が絡まり、顔に当た りそうになった。	複数名で流れ作業の場合は、作業 者同志の安全距離を確保して作業を 行う。			○		
46	構内	アクリル製板状の廃 棄物をパッカー車に 積み込む時	パッカーの巻き込み部で板が割 れ、鋭利なプラ片が飛散した。	パッカー車への積み込み時は、車両 直後に立たない。また、巻き込む際 に飛散防止対策を行う。			○		
47	工場の通路	通路を歩行中	後ろからトラックが来たのに気づ かず接触しそうになった。	歩行帯を塗りなおす。			○		

	どこで	何をしているとき	何がどうした	改善すべき事項	不安全行動(本人)	不安全行動(他人)	不安全状況	不安全設備	重機作業
48	1号棟内	土間清掃	履いている安全靴の靴底近くの側面から釘がささった。(怪我は無し)	構内を歩行する時は、常に釘が落ちている事を意識して歩行する。			○		
49	2号棟内	Fコン撤去中	フォークリフト作業中すぐ近くに作業員がいてびっくりした。	作業車の近くを通る時は一声かける。また、お互いに停止する。	○	○			
50	出荷場所である2号棟出入り口付近	フォークリフトで出荷している最中や、Fコン等を棟内から運び出している時	作業に集中していて、2号棟を横切る作業員に気づくのが遅れ、ヒヤッとした。	出入り口付近では、必ず一時停止をし、指差し確認の実施。死角となる場所での安全確認を怠らないように心掛ける。(掲示で注意喚起)	○				

収集運搬

	どこで	何をしているとき	何がどうした	改善すべき事項	不安全行動(本人)	不安全行動(他人)	不安全状況	不安全設備	重機作業
1	聖マリア病院付近	44号線をTFKから工場へ戻る途中	他県ナンバー車両がフラフラと走行しながら、聖マリア病院の信号で急ブレーキを踏み、ウインカーを出し右折していった。	他県ナンバーの旅行者などはカーナビなどを操作しながら走行していると考えられるので、いつもより車間をあけて走行する。		○			
2	船橋市栄町	収集作業をしている時	ピット上で作業するが、幅がそれほど広くなく、お客様の荷物が置いてあると台車をギリギリのところに置きながら作業する。その時、足を踏み外して落ちそうになった。	荷物がある場合、どかしてもらおう。または、台車のロックをしっかり止め、あわてず足元に注意しながら作業する。			○		
3	習志野市大久保	回収後移動中	ゴミを回収し、処理場に向かう車内で、汗をふきながら運転していたら、前の車が急に止まってぶつかるところだった。	運転中、他のことをしない。運転に集中する。	○	○			
4	習志野市津田沼	回収が終わり、出庫する時	京成線からJRIに向かう歩行者が多く、流れが止むのを待って出発しようとした時に、突然JRの方から歩行者が、自販機の陰から出てきてヒヤリとした。	左右を確認してから出庫しようとしてはいるが、片側からの歩行者が多いことに気を取られ、もう一度、左右を確認することを忘れてしまっていた。歩行者が多い場合は何度でも確認し、細心の注意を払う。	○		○		
5	砕石積み込み場所重機油圧ショベル(ユンボ)運転室内	ユンボで、砕石積み込み作業中、運転室のクーラーが不調で室内が高温となり、作業着の前ボタンを全て外し、暑さをしのいで運転していた時	作業が終了しユンボを降りる時、作業着の前身ごろのすそが、左レバーに絡まるように引っ掛かり頭から転倒し落車しそうになった。	室内が高温になっても作業着の前ボタンは外さない事 作業服は、正しく着用する事 厳守事項 「腕まくり、ボタン外し厳禁」 “直ちに全員に教育周知した”	○				○
6	富里市七栄県道上	収集業務先に向かっている時	交差点で右折車線より、急に直進車線の当車両の前に入り込まれた。	運転中、常に周囲に気を配り、スピードダウン、ブレーキをすぐかけられるように安全運転をする。		○			
7	匝瑳市内	収集業務先に向かっている時	いつものクランクを曲がる時にぶつかりそうになってヒヤリとした。	マンネリにならないようにする。	○				
8	四街道市	回収作業時	回収作業を終え、次の回収場所へ向かう際、近くにいた車が死角に入っていて気が付かず、ヒヤッとした。	周囲の安全確認。	○		○		
9	栄町	委託回収	トラックを集積所に駐車し、回収中、住民が背後からゴミを投げ入れてきた。集積所から発進した際に、住民がテールゲートへゴミを投げ入れてきた。	PTO作動中は周囲に細心の注意をはかる。発進する際に、後方確認を徹底する。		○			

	どこで	何をしているとき	何がどうした	改善すべき事項	不安全行動(本人)	不安全行動(他人)	不安全状況	不安全設備	重機作業
10	収集先小学校	連続作業にて収集作業をしている時	積み込み作業中に連続作動したまま、少し目を離れた時に、学校の生徒(低学年)が持ってきたゴミを抱え入れようとしていたので、危険だと思い作業を停止した。	学校等に限らず、人のいる場所では連続作動での積み込みはしない。作動中は目を離さない。積み込みは絶対に自分自身が行う。	○	○			
11	信号のない横断歩道	収集運搬中	横断歩道に歩行者がいたので、安全確認後停車し、道をゆずり、歩行者が横断中、対向車は歩行者に気づかず、急ブレーキで停止、ぶつかるところだった。	「横断歩道は歩行者優先」信号のない横断歩道は特に最善の注意が必要だと認識した。		○			
12	香取市山田	収集運搬中	道幅の狭い農道をいつもと同じ速度で走行していると、草で隠れた路肩が、何日も大雨が続いていたため崩れており、脱輪しそうになった。	毎日同じ状況では無いことを忘れずに運転する。道の状況が悪そうなら、出来るだけ迂回をし、いい道を選び走行する。			○		
13	収集先のホテル	積み込み作業中	ゴミを積み込み過ぎて、回転板でゴミをはさみ、袋が破裂してゴミが散らばった。作業員にも生ゴミがかかり、顔や体に飛び散った。危うく目に入るところだった。	急がずに、常に積み込み状況を見ながら作業する。破裂するおそれがある場合、回転板を止め、しっかり中に押し込んで動かす。	○				
14	一般道交差点	右折時	交差点を右折しているところ、歩行者信号が赤であったが、右から自転車が斜めに横断してきた。	交差点右左折時は最徐行で走行し、横断歩道以外にも注意を配り、周囲を確認する。		○			
15	一般道交差点	左折時	交差点左折時、自車のピラーが死角になり、右にいた歩行者の発見が遅れ、接触しそうになった。	交差点右左折時は体の状態を前後、左右に動かし、死角に歩行者、自転車の有無をよく確認する。			○		
16	片側2車線の一般道	左側を直進走行中	一般道の左側を走行中、自車の右側斜めを走行していた大型トレーラーがウインカーを出さずに、自車の前にいきなり車線変更し接触しそうになった。	他車と並走して走行しないよう車間を空ける。		○			
17	片側2車線の一般道	左側を直進走行中	一般道の左側を走行中、右側を走行していた乗用車が、首都高出口から出てきた大型車と自車の目前で接触した。	合流地点では周囲の車両に注意し、乗用車が大型車を避けて自車の前に急に車線変更する可能性も予測して、二次災害に巻き込まれないよう「かもしれない運転」を徹底する。		○	○		
18	片側4車線の一般道	3番レーンを直進走行中	一般道の3番レーンを走行中、1番レーンを走行していた軽自動車と2番レーンをまたいで自車の前に車線変更して接触しそうになった。	相手からは自車が死角になっていた可能性があるため、左右前方の車両と並走しないよう意識し、死角に入らないよう車間を空ける。		○			
19	木場付近	大型車両運転中	交差点の直進レーンを進んでいたら、右折レーンの車が直進してきた。	左右の車の動きに注意し、すぐに対処できる速度で運転する。		○			
20	千葉街道交差点	帰庫途中、交差点を曲がる際	歩行者赤信号にもかかわらず、スマホを見ながら横断してきた。	クラクションで合図を促したが悪いそぶりもなかった。		○			
21	路上	車両にて走行中	片側2車線の左側車線を走行中、前方にお年寄りの自転車が車道の中央を走っていた。抜かすに抜かせず右車線に変更して抜かした。	いつ倒れてくるかもかわからない状況なので同車線で抜かすことはしないようにする。		○			
22	駐車場	出発しようとしている時	輪止めを外さず、出発しようとして輪止めを破損させてしまうところだった。	出発前は車両の周囲の確認をしてから出発することを徹底。	○				

	どこで	何をしているとき	何がどうした	改善すべき事項	不安全行動(本人)	不安全行動(他人)	不安全状況	不安全設備	重機作業
23	明治通り亀戸近く	運転走行中	歩道を走行している自転車が急に車道に飛び出してきた。	危険予測を常に実行し、何があっても対処できるように心がけて運転走行する。		○			
24	環状七号線	事務所に戻る途中	環七道路を走行中、左側から自転車が道路に侵入してきて左側後方に接触した。	日頃から安全運転し心に余裕を持ち業務する。		○			
25	現場移動中	朝、現場へ乗用車で移動している時	自転車が前方走行中、後方確認もせず信号のない横断歩道を急に進路変更してきた。	安全な車間距離をとる。危険を予測し、かもしれない運転をする。		○			
26	靖国通り(小川町付近)	運転中	3車線道路の一番右を走行中真ん中を走っていた前の車がウイinkerなしで割り込んできて接触しそうになった。	急な割り込みを想定し、十分な車間距離をとり運転する。		○			
27	事務所前	営業車で出かけるとき	左右確認後ゆっくりと発進しようとしたが、歩道をスピードを出した自転車が走行してきてブレーキを踏んだ。	左右をしっかりと確認し、遠くに見える自転車や車も突っ込んでくる「かもしれない」と予測して万全の対策をとる。		○			
28	現場	汚泥吸引の為、大型バキュームを吸引箇所につけようとした時	荷重ランクの低いマンホールに乗りそうになった。	車両のクラスにより、危険な箇所はカラーコーン等で第三者の認識を可能にする。			○		
29	平和橋通り	乗用車を運転中、後ろからきた救急車へ道を譲った後、救急車の後ろを走行している時	救急車が交差点を赤信号で通過したことに気付かず、ブレーキを踏むのが遅れた。	運転中は周囲に気を配りつつも前方に集中する。惰性で運転しない。	○				
30	右折車線	右折時	右折車線が2車線ある道路の左側右折車線で右折していた際、トラックが右側右折車線で右折しながら突然左側車線に車線変更してきた。	たとえ自分に運転する自信があったとしても相手がどんな運転をするのか不明なので常に気をつけながら運転する。		○			
31	廃棄物積み込み場	雨天時にホッパーからダンプに廃棄物を積むとき	大雨の場合、過積載になることがある。	3.5tまで積載可能だが、大雨の時は2tまでにしてもらう。			○		
32	廃棄物回収先	積み込みすぎたダンプの汚泥を手作業で下ろしている時	足を滑らせ、落ちそうになった。	積み過ぎないように注意する。また、積み過ぎてしまった場合は、一度全部中身を下ろして積み直しをする。(手で下ろす作業はしない。)	○				
33	廃棄物回収先	ホッパーにバックでトラックを入れる時	場内が暗く、ホッパー付近の鉄柱にぶつかるところだった。	車両の停車位置に蛍光テープを貼り、暗所でも確認できるように停車位置を明確にする。			○		
34	首都高1号線上り	左車線走行中	右車線を走っていた車両が突然、左にある出口の分岐に向かって目の前に進路変更して来て接触しそうになった。	今回の事例のようにルールを無視した車が、いつ飛び込んできてもおかしくないことを認識し「かもしれない運転」を励行する。		○			
35	右左折一方通行の交差点	日没後、車両を運転中	無灯火の自転車が飛び出してきた。	右折・左折一方通行で一時停止の標識も無い為、自転車はまわりを確認せずに交差点を通過する傾向にある。日没後はなるべくその交差点を通らないコースを考える。		○	○		

	どこで	何をしているとき	何がどうした	改善すべき事項	不安全行動 (本人)	不安全行動 (他人)	不安全 状況	不安全 設備	重機 作業
36	見通しの悪い橋	信号が青になり発進した際	信号無視の小学生が横断歩道を渡ってきた。	青信号でも一時停止が必要。もしくはその道の使用を避ける。		○			
37	道路上	運転中	歩道を走っていた自転車が急に車道に出てきた。	かもしれない運転の重要性を改めて認識する。		○			
38	12号地先 M2 ドルフィン 積み 替え作業現場 で	本船(ガット船)をドルフィンに係留するため、引き船で本船からロープを引き出す作業をしているときに	本船から出したロープを引き船後部のビットに絡めて(軽くもやいをかけた状態)で船で引き出す作業中、ロープが出処でひっかかったため、ロープにテンションがかかり、綱取りの作業員が引っ張られて、ロープとビットの間に手が巻き込まれそうになった。近くにいた作業員が「手を放せ」と声をかけたが、すぐに手を離さなかったため、危うく大けがにつながるところだった。	海上作業においてはちょっとしたミスが重大な人身事故につながることを日頃から教えていたつもりだったが、あまり認識されていないことを今回発生した事案で改めて実感した。慣れにより油断した結果だと思う。これを教訓にして「人身事故は絶対にあってはならないことである」ということを職員の間で共有する。		○	○		
39	2車線の国道	運転中	2車線の国道を走行中反対車線が渋滞中の時、急にパッシングをされたので減速したら、渋滞中の車の間から、人が突然飛び出してきた。減速したので止まる事が出来た。	横断歩道のないところでも見通しが悪かったり、反対車線が渋滞してる時『だろー運転』を心掛ける		○			
40	国道16号 柏付近	2車線の道路、 左車線走行中	タンクローリー車にて走行中、シルバーマークを付けたお年寄りがラーメン店に入ろうと、確認もせず右車線から急に左側の店舗に進入した。急ブレーキによりギリギリ回避。あとわずかで接触するところだった。	シルバーマークや初心者マークの車輛を見たら、いづどんな行動をするかわからないので、見かけたら車間距離をいつも以上にあげ、気を配って運転する。		○			
41	一般道走行中	運転中	3車線の真ん中を走行中、左車線にいた原付が右折の為ウインカーも出さずに自転車に寄ってきた。2段階右折をする場所であったが、危険のため急ブレーキを掛けた	2段階右折を無視して原付が突然進路変更するかもしれないと頭に入れて運転する。		○			
42	龍ヶ崎市	運転中	前方の車輛が、青信号だったが停車した。	車間距離を保持する。		○			
43	八千代市村上	運転中 右折時	右折のみ可の矢印点灯中に対向車が直進してきた。	対向車がどんな行動するか常に注意する。		○			
44	環七道路交差点	運転中	右折レーンから方向指示器を出して右折を行う時にアクセルを踏んだところ、バイクが死角から飛び出してきた。	対向車を良く確認し徐行して交差点内は通行する。		○			
45	客先 廃棄物置場	客先廃棄物置場にて回収の為、ドラム缶の廃棄物を開封し、仕分している時	気温+内容物(溶剤)の揮発により、内圧が上昇していた。フタ付のドラム缶であった為、バンドを少し緩めて圧を抜いたがガスが抜け切れず、一瞬で蓋が5~6m飛んだ。	今回、見ただ目で内圧に気が付いたが、全てのドラム缶に対して内圧上昇に備え、保護メガネなどを着用する。フタやドラム/バンドの真上に顔が行かないようゆっくり緩めて確認を行う。			○		
46	国道16号柏市	回収現場に行くとき	信号が青になって走行したら、信号無視をした車が左側から出てきて追突しそうになった。	信号が青になっても左右を見てから発進する。		○			
47	国道296号	走行中	反対車線が渋滞中に渋滞の分け目から、急に自転車が飛び出して来て接触しそうになった。	周囲の状況を確認しながら走行する。		○			

	どこで	何をしているとき	何がどうした	改善すべき事項	不安全行動(本人)	不安全行動(他人)	不安全状況	不安全設備	重機作業
48	県道 (千葉県)	走行している時 (追い越し)	前を走っていたバスが停留場に止まろうとしたので、追い越そうとした時に前から対向車がきたため急にブレーキを踏んで左に寄ったところ、止まったバスに追突しそうになった。	対向車線に十分注意を払わなかった事。 車間距離が取れないときは追い越しをしない。	○				
49	関越道下り	左側走行中	真ん中車線の普通車が突然幅寄せしてき接触しそうになった。	相手の車はスマホを操作していた。 ながら運転は事故に直結するクラクション等で危険を知らせる。		○			
50	車庫出入口	表通りに出るとき	右折で出ようとゆっくりトラックを進ませたら、左側から乗用車が早いスピードでカーブを走って来た。	確認して、ゆっくり進んだため、事故にはならなかったが、あまり確認せず出た場合、当たっていたかもしれないので発進は確認し、ゆっくりと心がける。		○			
51	川口市の県道	一般道走行中	路地から自転車が急に飛び出してきて接触しそうになった。	周囲の状況を考え、すぐ止まれる速度で走行する。		○			
52	回収先	ドラム缶入りの廃油を積み込む時	ドラム缶を移動させようと転がした時、負荷や力が作用したらドラム缶に穴が開き漏洩するであろう程にドラム缶の下方が腐食していた。	積込む荷物の状況を確認してから作業を行う。 (荷物の保管状態を確認する)			○		
53	一般道路	信号待ち	対向車が横断歩道に人がいるにも関わらず、赤信号を無視して通り過ぎた。 運転手を見たところ、信号機に気が付いていない様子。 完全に赤い状態でノーブレーキだった。	前方不注意。 周囲の確認を怠らず、集中して運転する。		○			
54	高速道路の合流	運転中	合流の際に本線を通して来る車が加速して車間を詰めて来る。	合流の際は、すぐに合流するのではなく、十分な車間と合流ゾーンを活用する。		○			
55	顧客先	廃油回収作業中 (ローリー車)	吸引するためのホースを持った時、使っていたゴム手袋に油が付いたため滑ってホースを落としそうになった。	都度、ゴム手袋をウエス等でキレイな状態を保ち、滑らない状況を作る。	○		○		
56	一般道 (浦安市内)	T字路を左折する時	左後方を確認し、左折を始め右方向の自転車歩行者を確認し、再度左方向を確認すると、左折中の自転車左側路側帯をオーバーイーツの自転車が無理やりすり抜けた。	左折する時は、左右の確認だけでなく、バックモニターも確認する。		○			
57	国道357号線西行(市川塩浜付近)	廃棄物輸送中	左車線走行中に右車線を走行していた乗用車が急に左側に寄ってウィンカーを出さずに車線変更し、自転車の前に入ってきた。	乗用車は車間距離が無くても割り込んでくることを前提に車間距離を確保して走行する。		○			
58	構内道路 (ゆるやかなカーブ)	運転中	車を運転中、左側に自転車が走行しており、ゆるやかな右カーブに入る直前に対向車がいらないと思い追い越したが、右側に駐車車両の後方から車が来て慌てて元の車線に戻った。	道路の右カーブや右側の駐車車両を認識したのに自転車を追い越した。 見通しが悪い場合の追い越しは絶対に行わない。	○				
59	一般道 (市川市内)	片側1車線を走行中	道路左側のマンションの前で乗用車が停車し、追い越そうとした時に乗用車の運転席ドアが空いて接触しそうになった。	停車車両の中が確認可能な速度で追い越す。 生活道路は駐車車両の死角からの飛び出しを常に意識する。		○			
60	構内	車両を発進させるとき	歩行者が車両前方ギリギリを横切った。	嫌がらせをする歩行者がいるので発進前に周囲の安全確認を徹底する。		○			

	どこで	何をしているとき	何がどうした	改善すべき事項	不安全行動(本人)	不安全行動(他人)	不安全状況	不安全設備	重機作業
61	一般道	廃棄物収集運搬中	自転車左前の自転車を追い越さずに徐行している時、自転車が後方確認しないで道路を横断した。	常に周囲状況を確認し、自転車の動向に注意する。		○			
62	構内	駐車場内ゴミ置き場に向かう時	駐車場に進入する際に停車している車が急に後退してきた。	注意して運転していたが停車している車で動かないと思い込んでいた。駐車場内はいつでも停止出来る速度で走行する。		○			
63	構内平面交差点	一時停止後右折するとき	運転席側を自転車が追い抜いたことで接触しそうになった。	自転車を認識したらどう動くかを予測して運転する。		○			
64	国道357線(千葉方面)一般道路	渋滞で停車中	停車時に後方でバイクが車と車の間をすり抜けているのを認識していたが、自車が動き出す時に脇をすり抜けられた。	発進は前方だけを注視せずに、周囲の動きを確認する。		○			
65	一般道(市川市内)	片側2車線の左側走行中	前方で右折待ち車両がいたので右側車線からウインカーを出さずに自車の前に割り込んできた。	前方の状況を把握し、周囲との安全距離を確保する。見込み運転をしない。		○			
66	小金井市内一般道	トラック運転中	交差点で右折待ちしている時、右側から自転車が車道に左折した際に直進車と接触しそうになっていた。	交差点侵入時は、前方が青でも周囲の動きを確認して「かもしれない」運転を意識する。		○			
67	構内	信号機の無い横断歩道を通過する時	歩行者が道を譲ってくれたので走りだそうとした時に他の歩行者が歩き始めた。	歩行者が道を譲ってくれても、徐行して周囲の危険を意識して通行する。		○			
68	一般道(野田市内)	豪雨の中で大型トラックとすれ違った時	水しぶきが自転車ウインドガラスにたたきつけられて前方が見えなくなった。	前方から大型車等が迫ってくる場合は徐行運転を心がける。			○		
69	信号機の無い横断歩道を通過する時	廃棄物の収集現場に向かう時	近くに自転車置場があったので速度を落としていたら横断歩道ではない所から自転車が飛び出してきた。	横断歩道の周辺は、歩行者や自転車が突然出てくる場合があるので速度を落として左右をよく確認して「かもしれない」運転をする。		○			
70	関越道東松山IC	走行中	左側車線を走行中、東松山IC出口付近で追越車線からいきなり自車の前をギリギリに横切り出口に向かっていった。	常に周囲を良く見て「かもしれない」運転をする。		○			
71	浄化槽清掃現場	浄化槽汚泥収集中	作業に集中し過ぎて自分の後ろ側のマンホールを失念し足を踏み外しそうになった。	狭い場所での作業時は、作業前のKYを徹底し、足元を良く確認し、作業者同志で声掛けを常に行う。	○				
72	構内道路	トンネル出口のT字路を左折する時	カーブミラーの角度がずれており車道が見えないので徐行して左折しようとした時に右から車両が来て接触しそうになった。	道路管理者へ連絡する。視界が悪い中は、最徐行で発進する。				○	
73	構内	回収作業後、発進する時	歩きスマホの歩行者が自車の直前を横切った。	慌てずに前後左右を確認する。		○			
74	関越道下り鶴ヶ島JC	左側車線走行中	前車のトラックが圏央道へ行く車線に変更したが分岐ギリギリになって自車の前にウインカーを出さずに戻ってきた為、急ブレーキを掛けた。	分岐があっても車が急に車線変更してくるかもしれないので左右の車との距離を確保して注意する。		○			

	どこで	何をしているとき	何がどうした	改善すべき事項	不安全行動(本人)	不安全行動(他人)	不安全状況	不安全設備	重機作業
75	排出事業者構内	廃棄物をコンテナに積載後、シート掛けをする時	シートのゴムに足が引っ掛かり転倒しそうになった。	シート掛けの際も気を抜かず、足元の整理を行いながら作業を行う。	○				
76	構内	収集現場に向かっていている時	ワンボックスカーが後部ドアを開けて止まっている時に、追越する際に上部に開放しているドアに接触しそうになった。	停車車両をかわす際は徐行及び車間に余裕を持って安全を確認する。	○				
77	関越道下り	走行中	左車線から中央車線へ車線変更する時、追越車線からウinkerを出さずに普通車が中央車線へ来た為、衝突しそうになった。	十分な車間を確保し、追越車線にも車がない事を確認してから車線変更する。		○			
78	東関東自動車道千葉方面走行中	三車線の中央レーンを走行中	道路上に落ちていた脚立に接触しそうになった。	前車との車間距離を確保する。			○		
79	一般道横断歩道手前	走行中に横断歩道手前で徐行している時	右ミラーと車体ピラーの死角に歩行者がいた。発進する瞬間に気づき急ブレーキをかけた。	徐行時は歩行者との速度が一致してしまつた。身体を動かして左右確認を徹底する。		○	○		
80	構内	強風の日にパッカーから降車しようとした時	風が強いので手でドアを持って降車しようとしたが、ドアが風にあおられて横に停車している車に接触しそうになった。	強風を認識して少しづつドアを開けた。			○		
81	一般道	駐車場に入場する車の渋滞の列に並び低速走行中	県外ナンバーの車が無理やり割り込んできた。	前車との車間距離を確保して低速走行していたが、乗用車に割り込まれたので適正な車間距離を保つ。		○			
82	一般道(市川市内)	片側2車線の左側走行中	右ウinkerを出して進路変更しようとした時に、右車線を走行する後続車と接触しそうになった。	早めにウinker点灯して後続車に認知させる。	○				
83	構内	アームロールでコンテナを引き上げる時	車両後退中に歩行者が車両後方を横切った。	車両後方だけでなく、周囲の人の動きも確認する。		○			○
84	構内	構内道路走行中	後方から自転車が進んで自車の前を横断した。	人と車両が混在している場合は全方位に注意して走行する。		○			
85	一般道(市川市内)	走行中	客先到着時間が迫っており、時間を気にして腕時計を見たときに標識にぶつかりそうになった。	時間が気になっても焦らずに落ち着いて運転に集中する。	○				
86	一般道交差点	前方信号が赤の為停車している時	左側から乗用車が右折し自車に向かってきた。	逆走する運転手等は車に乗らないで欲しい。		○			
87	一般道(東京都内)	交差点を右折する時	自車前方の信号機が青だったので速度を落とさず交差点に進入する際、信号無視のタクシーが左方より進入してきた。	前方の信号機が青でもしっかり減速していつでも止まれる速度で交差点に進入する。		○			
88	敷地構内	駐車場から構内道路に出る時	建屋の脇から自転車が飛び出してきた。	建物等見えにくい場所は、一旦停止をする。カーブミラーは危険ポイントに設置されているので必ず目視確認を行う。		○			
89	構内道路	信号機の無い交差点を通過する時	交差点に進入する時に左側からスマホを見たまま歩行者が出てきた。	交差点進入時は最徐行する。		○			

	どこで	何をしているとき	何がどうした	改善すべき事項	不安全行動(本人)	不安全行動(他人)	不安全状況	不安全設備	重機作業
90	一般道(JR本八幡駅前)	道路走行中	高齢者が運転する自転車を追い越すときに自転車が入り込んで接触しそうになった。	通行人や自転車を追い越すときは1.5m以上の距離を確保して最徐行で追い越す。無理して追い越さない。		○			
91	一般道(市川市内)	道路走行中信号の無い交差点	自車が交差点優先道路を走行中、左方から一時停止を無視した自転車が進入してきて接触しそうになった。	交通ルールを無視する自転車が多い事を認識して、交差点では止まれでなくても一時停止を行う。		○			
92	排出事業者構内	パッカー車に廃プラを荷積中	複数名で積み込み作業を行い始めた時に、各自のペースが合わずに他者が操作ボタンを押した為、巻き込まれそうになった。	作業前KYと作業指揮者を明確にしていなかった。複数名での作業時は声掛けによる安全確保を徹底する。	○	○			
93	処分場構内	処理場のピットに向けて後退した時	荷下ろしの為、トラックを方向転換させ後退しようとした時に、自車後方をトラックが通過した。	処理場構内はローカルルール等があり、方向転換や後退する時は周囲の車両位置や台数を把握し「かもしれない」運転をする。		○	○		
94	一般道	収集運搬の走行中	ゲリラ豪雨となり、前がみえなくなった。	無理せず、安全な場所で待機する。止まらない場合は可能な限り減速する。			○		
95	一般道(市川市内)	道路走行中	歩道を走行していた自転車が急に車道に飛び出してきて接触しそうになった。	飛び出しは子供だけと思いきまない。視野を広く持ち、状況を把握する。		○			
96	一般道(市川市内)	収集の為に降車するとき	ゴミステーションに到着後、降車する際にステップから足がすべった。	いつもの慣れた行動でも焦らず、慌てず足元をしっかりと確認して降車する。	○				
97	一般道(市川市内)	バック誘導しているとき	狭路でバックする際の誘導時に自転車と接触しそうになった。	自転車は声を掛けてもほとんど協力してもらえないので、細心の注意を払う。		○			
98	廃棄物収集場所	積み込み中	重い荷物を認識していたが、持ち上げた時にぎっくり腰になりそうになった。	腕の力だけでなく、しっかりと腰を落として持ち上げる。	○				
99	交差点	前方信号が青になり発進するとき	自転車が信号無視で交差点に入ってきた。	信号が変わった直後は、周囲の安全を確認して発進する。		○			
100	排出事業者構内	20リットルポリタンク等容器をパッカー車に積み込み作業時	パッカーの巻き込み部でポリタンクが弾かれ車両真後ろに飛んできた。	無理な量を巻かない。車両後部には立たずに車体後部横に立って積み込みボタンの操作する。	○				
101	一般道(市川市内)	走行中	慣れた一般道の交差点を左折する際、進行方向で工事の為車線規制しており、急遽小回りしたときにオーバーハングで右後方が一般車に近づいた。	慣れた道でも状況の変化を読み取り、常に落ち着いて運転する。	○		○		
102	廃棄物収集場所	積み込み中	連続作業をしていて暑さでもうろうとなり、段差で気が付かず転びそうになった。	いつもとちがうと感じたら無理せず休憩する。自分を客観視する。			○		
103	交差点	右折待ちの際、対向車に道を譲られて右折した時	対向車の後ろから自転車が飛び出してきた。	右折を譲られても急がない。		○			

	どこで	何をしているとき	何がどうした	改善すべき事項	不安全行動(本人)	不安全行動(他人)	不安全状況	不安全設備	重機作業
104	一般道 (千葉市内)	走行中	片側2車線の一般道を走行中、車線変更後にウィンカーが戻っておらず、交差点で対向車からみて自車が曲がると思い交差点に進入してきた。	ウィンカーやハザードランプの消し忘れを常に意識して、他車を惑わせない運転を心掛ける。	○				
105	構内	荷下ろしする時	荷下ろし場の側溝脇に段差(約3cm)が出来ていたが荷下ろしに集中して段差につまづいた。	不安全な状況を確認したら、すぐに補修(手配)を行う。				○	
106	処分場	荷下ろしの為に車両から降車する時	工場内床の敷鉄板に油が付着しているので、注意して降車するよう指示を受けて、手すりをつかんで降車したが足が滑った。	降車時は安定を保ち、手元・足元に注意してよそ見をせずに着地する。			○		
107	処分場構内	ウイング車から荷下ろしを開始する時	走行中に積載物が動き、荷降し開始時に勢い良くウイングを開けた際、上部のダンボール箱が落下した。	ウイング及び後部観音扉を開ける際は、少しずつ解放し、積荷の状況を確認しながら開ける。			○		
108	一般道	廃棄物の収集運搬中	ハザードを点けて停車中の車を右側方から抜こうとした所、停車していた車両が動き出した為、自車の側方に接触しそうになった。	停車車両をかわす際は十分な間隔をあける。 相手は見えているだろうの気持ちをなくす。		○			

中間処理・最終処分

	どこで	何をしているとき	何がどうした	改善すべき事項	不安全行動(本人)	不安全行動(他人)	不安全状況	不安全設備	重機作業
1	会社構内 (屋外)	産業廃棄物処理 (作業中)	外気温の上昇につき(夏の炎天下)作業中熱中症の心配がある。	こまめな水分補給の実施、熱中症対策グッズ(携帯式)の所持、作業場の改善(大型散水式扇風機の設置)などで対応した。			○		
2	新ガス精製3階	点検の為に、移動中に	壊れてぶら下がっていた照明器具にぶつかりそうになった。	補修完了まで器具を横にずらして固定し、注意喚起表示をした。 補修依頼を行い、補修完了した。				○	
3	TKB-2上部通路	槽内の点検に行くため歩行時に	安全柵の支柱が腐食してグラグラになっていた為、掴んで墜落の危険があった。	立入禁止処置をし、関係者全員に周知した。 補修依頼を行い、補修完了した。 他所の一斉点検を行う。				○	
4	工場敷地車両 進入口	フォークリフトでフレコンを運搬時に	側溝の上蓋鉄板がずれて隙間ができ、フォークリフトが脱輪しそうになった。	コーン・バーで囲い注意喚起の表示をした。 側溝の縁が破損して蓋が治まらなくなっていたので補修依頼し、補修完了した。				○	
5	磨砕機設備	階段昇降時に	階段が凍結して滑り、転倒しそうになった。	足元確認・三点支持して慎重に歩行するよう関係者に注意喚起をした。 注意喚起の表示をする。			○		
6	透視度サンプリング場	ライン詰まりで、工水にて逆洗時に	ホースが外れて、液を浴びそうになった。	ホースバンド固定の再確認をし、増締めをする。 防災面を使用する。			○		
7	地下2号振動CV	CV上の大塊地金を除去時に	重量があり、腰を痛めそうになった。	無理をせずに2人作業とする。 ホイストクレーンを使用する。	○		○		

	どこで	何をしているとき	何がどうした	改善すべき事項	不安全行動 (本人)	不安全行動 (他人)	不安全 状況	不安全 設備	重機 作業
8	地下設備	地下点検時に	天井が低い場所で、頭をぶつけそうになった。	衝撃緩衝材を取付し、注意喚起のピンクリボンを取付けた。				○	
9	2号Sバーナー床	SBバーナーを取り外し時に	場所が狭く、作業がしづらいため、足の上に落としそうになった。	抜き取り時は2人で作業を行う。			○		
10	水処理設備	PH計電極交換時に	残液が飛散して、顔にかかりそうになった。	防災面を使用する。 液抜き確認を確実にを行う。 残液がある”かもしれない”と意識して慎重に作業する。			○		
11	地下設備	水砕ストレーナー掃除作業時に	地下は蒸気で蒸し暑い為、熱中症になりそうになった。	連続作業時間を短くして、休憩を入れる。 送風機を使用する。			○		
12	主灰コンテナ内部	灰の上に乗る、灰をならしている時	コンベアが動いて、大きめのクリンカが落ち、左足に当たった。	コンベアが確実に停止するまで、コンテナ内部に入らないようにする。	○				
13	主灰保管庫	コンテナ内の物を別のコンテナに移す作業中	ユンボの操作を誤り、コンテナが後方に移動、前輪を破損させてしまった。	操作技術向上。 コンテナが動かないように対策してから作業を行う。	○				○
14	予冷室	灰出し作業	設備上部からスコップを落とし、下にいる作業者に当たりそうになった。 定修作業後ドラム缶にスコップをしまう際、強風にあおられ安全柵からすり抜けスコップを落とした。	スコップを入れるドラム缶を柵から離す。	○		○		
15	作業場	ユンボで移動している時	右後ろにバックしようとしてぶつかりそうになる。	必ずバックモニターを確認してからバックする。	○				○
16	投入ステージから炉内	単管パイプを投入ステージ(上)から炉内(下)へバケツリレーで運んでいる際	斜め掛けしてあった単管パイプが他のものを運んでいる際、1本滑り落ちてしまい、炉内で作業している者に当たりそうになった。 	パイプを動かないように固定する。 パイプが勝手に動いてしまっても、危険がない場所に置く。	○		○		
17	車が行きかう通路	コンテナを前出しするのにフォークで通路を通る際	通路を通る際に車と接触する恐れがあった。	爪が出ているので、斜めから出て左右確認。	○				
18	クレーン上部	クレーン点検	クレーン走行ギアのフタを開けたまま走行して、クレーンセンサーバーを曲げてしまった。	フタを開けて走行しない。	○				○
19	燃焼炉 C/V テール側	スカムかき出してカゴを運ぶ際	階段をふみはずしてヒヤリとした。 夜中の作業でメガネをしていなく、ヘッドライトの電気がうすくなってきていた。	予備のメガネを用意する。 ヘッドライトの電池を充電しておく。	○		○		
20	保管庫前	ユンボに乗ろうとした時	ユンボの手すりを掴んだが、滑ってしまい倒れそうになった。	ユンボの手すりに滑り止めテープを貼る。			○		○

	どこで	何をしているとき	何がどうした	改善すべき事項	不安全行動(本人)	不安全行動(他人)	不安全状況	不安全設備	重機作業
21	材料投入コンベヤの立ち上がり傾斜位置	材料投入コンベヤに油圧ショベルで材料供給している時	コンベヤの立ち上がり傾斜位置で、投入したテーブ形状の長物材料が巻きつき、雪ダルマ状の塊となり、危険を感じた。緊急停止をしようとしたが、停止スイッチを瞬時に見つけられなかった。	コンベヤにひと目で認識できて、どの位置でも使える赤色の引網式安全停止スイッチを設置。標準化し、作業者全員に周知。危険な時はいつでも止められる安全運用を実施。			○	○	
22	工場	作業中	ショベルローダーで運搬、バック時トラックと接触しそうになった。	ショベルローダーバック前進時、左右の確認、声出し確認する。	○				○
23	3連ヤード	バケット作業中	ヤード内からバケットをバックした時に、車軸が近くを走行していた。	工場内一旦停止を守る。車両で工場内はスピードを出さない。自分が今、工場内に何台車両があるか頭に入れ作業、動く前に安全確認。他のドライバーと合図でゆずる。	○				○
24	破砕機作業場所	廃プラの分別作業	スプレー缶を発見した。	お客様にも分別を徹底してもらう。		○			
25	地下前処理施設	スクリーコンベアの排水口詰まり除去作業	棒で突っついて詰まり除去作業していたが、スクリーを動かしながら行っていたため、棒が巻き込まれた。	詰まり除去作業をする際は、機械のブレーカーを切り作業をする。	○				
26	1階 中和タンク	中和タンク調整作業	バルブの操作手順を間違い、少量ずつ処理するものを、一度に移送してしまった。	バルブの数が多く、切り替え操作は間違いが発生しやすい。対策として、バルブに頼らずホースを毎回接続する様にして作業を単純化する。	○			○	
27	中間処理施設(固化処理)の受入れ槽(Gピット)で	ドラグショベルのクレーンで持ち上げたフレコンバック荷姿の汚泥を、手順に沿って安全バー越しにフレコン2か所にカッターで切り込みを入れて開放し、フレコン内の汚泥を自重でピット内に落とす作業をしているときに	フレコンが劣化していたため、ベルトの根元部分から切れて、フレコンごと落下、安全バーに当たり、ピット内に落ちた。フレコンと安全バーの間に作業員が挟まれたり、落ちてきたフレコンが体に当たる可能性があった。 ※フレコンの重さは1トン弱である。	フレコンはピット付近に一旦置いてから、切り込みを入れるようにした。				○	○
28	工場内	重機のグリスアップ	グリスが足裏に付着したまま重機に昇り、ステップから足を滑らせ転落しそうになった。	グリスの垂れや付着した場合は、ウェス等で付着物を拭く。			○		○